七夕祭り、今週末に開催＝240の飾りがズラリ街頭に

（左から）来社した市田さん、池崎会長、秋村実行委員長

リベルダーデ文化福祉協会（ＡＣＡＬ、池崎博文会長）は１５、１６の両日午前１０時半から、サンパウロ市のリベルダーデ広場を中心に『第３９回七夕祭り』を開催する。

約２４０の七夕飾りが広場からガルボン・ブエノ街とエストゥダンテ街を彩り、食品や雑貨を販売する出店がずらりと並ぶ。広場に設置される主要舞台では、太鼓や踊り等、約５０演目が繰り広げられる。

来場者が願いを書く短冊は、一枚２レアルで販売され、たくさんのブラジル人がポ語で書いた願い事を短冊に結びつける。祭りの後、短冊は回収され、願いが天まで届くよう御焚き上げの儀式が行われる。また同祭の一部収益は、援協、こどものその、憩の園、希望の家の福祉４団体へ贈られる。

来社した池崎会長は「今年は不況だからお金に関する願い事が多いかも」と予想し、秋村寿治実行委員長は「来場者は多いときで１８万人を越え、人数では世界一ともいわれます。我々皆の祭りなので、家族や友人を誘い、大勢で愉しみましょう」と呼びかけた。

開会式は１５日午後２時から、大阪橋の鳥居で行われる。問合せは、同会（１１・３２０８・５０９０）まで。